

## 愛称は「とまっぺ」に決定 保原総合公園に宿泊所完成

園 生涯学習課 ☎573-5709

**保** 原総合公園利用者のクラブハウス機能を備えた簡易宿泊所が完成しました。施設の愛称は応募総数582件の中から、掛田小学校5年の菅野琥太郎さんが考えた「とまっぺ」に決まりました。



宿泊室は2段ベッドが4台  
多目的室は日帰り利用も可能

小学5年生の通学合宿体験活動やスポーツ少年団の合宿、企業の研修などでの利用が予定されていて、日帰りで利用できる施設もあります。オープン時期は未定ですが、決まり次第広報紙などでお知らせします。

### とまっぺ

収容人数：定員56人  
 宿泊室数：8人×6室、4人×2室  
 宿泊料金：(市内)大人2,200円、高校生以下1,100円  
 (市外)大人3,300円、高校生以下1,650円  
 施設紹介：多目的ホール(食堂)、調理実習室、浴室、談話室、クラブハウス ほか

### ★VOICE

ばあちゃんが〇〇っぺとよく使うから、泊まるを「とまっぺ」としました。まさか自分の考えた「とまっぺ」に決まると思っていなかったのどびっくりしました。たくさんの人に泊まってもらい、うれしい気持ちで帰ってみたいです。



掛田小5年 菅野琥太郎さん



## 防災体制の人的強化を図る 防災専門員を設置

園 消防防災課 ☎575-1197

**自** 然災害が多発している現状を踏まえ、市民の安心・安全を確保し、防災体制を強化するため、今年度から消防防災課に防災専門員を配置しました。



防災専門員に任命された星智雄さんは、陸上自衛隊システム通信団で副隊長を務めるなど、災害現場に精通し、「地域防災マネージャー※」の資格を持っています。市長から辞令が手渡されると「災害対策の戦力になれるよう努力します」と抱負を述べました。

防災専門員は災害時には対策本部への助言や関係機関との連絡調整などを担います。平時は自主防災組織の育成や地区の防災計画作成の支援、防災訓練の企画・立案などに取り組みます。

※防災の専門知識と経験をもつ外部の人材を、自治体などの危機管理担当として配置するため、国が認定するスペシャリストのこと

### 防災体制を強化

▼令和2年度予算は6百6

## 利便性の向上に 水道お客様センター開所

園 水道お客様センター ☎573-5036

開所時間：平日8時30分～17時15分(木曜日は19時)  
 主な業務：開栓などの各種届出、納付書発行、料金収納、使用水量や漏水など水道全般のお問い合わせ



どこでも安全でおいしい伊達の水が飲めるよう、伊達市独自の冷水サーバーが設置されました。熱中症対策やプラスチックごみ削減につながります。マイボトル持参でご利用ください。

### マイボトル持参で

わりはありません。

**4** 月1日、水道お客様センターが開所を迎え、須田市長が「地元密着でレベルの高いサービスが市民に提供されると期待しています」とあいさつしました。

利便性の向上や経営の効率化を目指し、民間事業者に委託して設置するもので、市民の皆さまが行う手続きや料金の納付方法、お問い合わせの電話番号に変わりはありません。

## 庁舎を有効活用 梁川に「地域の窓口」オープン

園 総務課行政経営係 ☎575-1111

**旧** 梁川分庁舎の1階に、東邦銀行とJAふくしま未来の窓口がそれぞれオープンしました。利用者からは「用事が一度で済んでありがたい」との声が聞かれました。

令和元年東日本台風被害が深刻だった梁川地域の復興を進めるにあたり、今後も柔軟に旧梁川分庁舎の利活用を検討します。



## 地元のあたりまえが「魅力」 地域おこし支援員が活動を報告

園 地域振興対策室 ☎573-5623

**野** 村支援員は東京の大学生を巻き込んでグリーンツーリズムを行いました。種まきから収穫まで学生が毎月通うことで地域との絆が深まったことに触れ、都会の学生が新たな地域づくりの一員になり得ることを報告しました。

浜田支援員は、地元の人自分たちが住む地域に愛着を持つことを最優先と考え活動しました。その中大石地区をパワースポットと捉え、文化財マップを作るなど、地元の人気が気づいていない魅力の「見える化」に取り組みました。



左から野村明祥支援員(月館町糠田)、浜田和彦支援員(霊山町大石)、小林朗子支援員(月館町布川)。新任の小林支援員は着任のあいさつをした